

平成 21 年度第 2 回山梨県文学館協議会議事録

1 日 時 平成 22 年 3 月 11 日 (木) 午後 1 時 3 0 分～

2 場 所 山梨県立文学館研修室

3 出席者

(委員) 増坪 愛子 赤池 あずま 宮崎 吉宏 向山 文人 宮司 幸雄 橋本 朝生
石田 千尋 数野 強 小野 正 水垣 彩 乙黒 幸江 益田 洋美

(文学館) 近藤館長 竹井副館長他 6 名

(教育委員会) 佐藤教育次長他 2 名

(SPS やまなし) 伊藤総支配人他 1 名

4 会議次第

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 教育次長あいさつ

(4) 館長あいさつ

(5) 議事

(6) 閉会

5 会議に付した事案の件名

(1) 平成 21 年度の事業報告等について

(2) 平成 22 年度事業等について

6 議事の概要

(1) 同 上 事務局説明

(2) " "

(議長) 利用状況等を含めまして、21 年度の活動状況等につきまして、柱は三つ、見る・学ぶ・楽しむと言うことで、展示、教育普及、魅力ということで、ご質問ありましたらいかがでしょうか？ご意見でも結構ですが、活動範囲がかなり広まっています、教育普及、学ぶは非常に地道に努力なさってくれている訳です。

(議長) 見る限りきめ細かな活動でして、先ほどの施設の利用状況等の説明のなかで、画期的に今年には企画展の人数、常設展も大分増えてきた。平成 10 年度以降はじめて、3 万人を超えたのは平成 19 年度はありましたが、3 万 2 千で、非常に利用者が増えた。事務局としては、ここら辺が良かったのかなというのがありますか？ここが効いたんじゃないかというのが。

(事務局) 企画展の春、秋の展覧会は春が太宰治、秋が樋口一葉でして、もっとも人気のある作家二人でして、テーマに左右されますが、太宰治はちょうど生誕 100 年でして、世間的にもさまざま注目されたところでしたので、ある程度の入館者があったのではないかと考えております

また、広報先等々も見直すなかで、出来るだけ無駄を省くような努力をしてきた。そういった事も効果があったのではないかと考えております。

(議長) ありがとうございます。確かに太宰治展、かなりの数でしたよね。ちょうど時期も時期

だったし、ピヨンの妻も映画化されたり、3月号の文芸春秋にも対談なんかも太宰に関しては乗っておりまして、そういう点に関しても時期にあった企画だったんじゃないでしょうか。

いろいろやったださっているから、つけている余地がないくらい。

新田小の生徒なんかは美術館の方でもやっているようですね。いいことですね。

(事務局) 新聞で美術館の方で新田小の子供たちが解説をしているというお話ですが、文学館でも一葉のコーナーの解説をとということで取り組んでおります。

(議長) もう、取り組んでいるんですか。

(事務局) はい、もう取り組み始めているところです。一葉の学習を一葉の資料集が文学館にごさ
いましてそれを使いまして、まず、第一段階の学習が今済んでいるところです。

毎回、常設展の展示を見ながら一つ一つの資料についての学習も一步一步進めているところ
で、目標としては今年の11月には子供たちが近隣の地域の方に呼びかけをしまして、
地域の方々に解説が出来るようになればいいなと考えているところです。

(議長) はい、ありがとうございます。

(事務局) 実は新田小学校の校長先生が非常に文学、美術に関心が深く、この計画につきましては、
美術館におきましては、1年生から6年生全員が6年かけて美術館、文学館を勉強しよう
ということのなかで、発表は6年。今年たまたま美術館は発表が終わっているが、6年生
が発表している。

文学館にあっても6年間の実績として、今年初めての取り組みですが、6年卒業時に父兄
の方々を含めて地域の方々にも美術館、文学館を解説したいと、という趣旨で始めた事
業です。

(議長) その時に、できれば地域、父兄以外に是非先生方の研修の場に先生方に実際きてもらって、
やればもっと広がっていくと思う。やっぱり子供の教育には教員の意識とか意欲がないと
だめなんです。是非そういう時には、研修の機会にとらえていても、大量に先生方に現場
をみてもらって、ということも考えてもらえばありがたい。

(委員) 今の新田小学校との連携の話ですが卒業時に解説を、ということですがもう今年が終わっ
たんでしょうか。それとも今からでしょうか。文学館の方は今からでしょうか。

(事務局) 美術館は終了しました。文学館は新年度に行います。

(議長) 初めて出席された委員の方、何かお感じになったことがありましたらどうぞ

(委員) 一葉の方が太宰より増えるかなと思った。

(委員) 入館者数の多いのにすごいなと。

(委員) 11ページのところで9番に文学解説・各種講師派遣事業があるが小学校に延べ11校で
すが、どんな内容か教えてほしい。

(事務局) 小学生が学習するには文学館が難しいというふうな印象をもたれている学校が多いか思
うが小学生にもわかりやすい常設展クイズを用意し、小中学生対象にジュニアガイドブ
ック（展示してある主な作家の解説をしてある写真入り）の利用で常設展の作家の顔と
名前を覚えてもらうなかと、山梨との関わりのポイントを押さえた学習をしております
また、企画展の時も小中学生対象のチャレンジクイズを作成して、クイズを利用しなが

らわかりやすい学習をしております。

公園に文学の柱がありますが、地図を見ながら24本の柱を探しながらクイズに答えると言う4年くらいから、文学の柱、追跡散歩もできるようになっています。

新田小学校の場合はお近くで通ってくれているので、さらに教育普及用の詳しい解説の資料集を使用してさらに深く進めています。

(委員) 講師派遣ということで、小学校に3校、行っていますがそれについて教えてください。

(事務局) 俳句教室を派遣でおこなっています。それ以外に読書について中学生対象にお進めの本等について行いました。

(委員) ポスターはどんなところに配布していますか。

(SPS やまなし) 公民館、図書館、行政施設、観光関係の施設に配布して掲示をお願いしております。色の露出が落ち着いているので、目にとまらないところもあるかもしれませんが、今回のポスターに関しては、かなりの枚数の掲示をお願いしております。通常の企画展よりは多く露出来るように、また山梨交通のバスの中等々、形を変えていくつか掲示をしております。

また、チラシも作成して、レイアウトを変えて2種配布し、甲府駅の観光案内所にも大量にお届けしております。

(議長) 広報活動については、報道関係の方も協議会の委員になっていただいております。NHK・UTY・YBSとお互い広報活動は大事なことで、いろいろ企画を取り上げていただいているところですがNHKではいかがでしょうか

(委員) NHKでもスリースクリーンズということでホームページ、データ放送をみていただくと、美術館の案内等に極力出すようにしています。また毎週木曜日に甲斐眺望ということで、山梨ミュージアムコーナーで極力皆様方と連携をとって、公共放送ということもあるので出来る範囲でご協力していきたい。

(議長) YBSさんお願いします。

(委員) 新聞紙面を中心に積極的に取り上げる用意をしています。インターネットニュースみるじゃんとの連携をはかって、よりきめ細かく積極的に取り上げようとしております。

また新年度事業に絡む、新田小学校の連携、美術館・文学館等の連携もあるので文化欄などでは、文化的見地から取り上げるが、学校等の連携事業にはまた違った紹介の仕方ができるのでとりあげたい。

(議長) 山梨日日新聞ではやまなし文学賞の紹介もしてくださったり、文化面では充実させていただいています。

(委員) 昨年まで図書館にいて、宣伝しているつもりでも、いきわたらないもどかしさがあった。これだけやっているが家庭の人はポスターを見る機会がなく、目立たせる工夫が必要ではないか

(議長) 今のことでなくても結構ですが、何かお感じになった事ありましたら。

(委員) まだ文学館って「どこにあるの？」て、いまさらながら言われることもある。非常にもったいないなと感ずる。いろいろの取り組みをされていて、博学連携と新しい分野に取り組みされているので若い世代が気軽に親しめるようなイベント、また学校の勉強と連携した

ような、学校で分からなかったことが文学館に来れば分かったとか、ここで文学が好きになったといってもらえるような取り組みが広がっていくといいかなと感ずる。

(議長) いかがでしょうか。風林火山博を企画しているので、企画と言う面で。

(委員) 21年度の入館者を見てみると6月、10月が多く入館されているけど、それなりのイベントがあるかと思うが、全体から1月分をひきますと101.4で前年をオーバーしている。景気の悪いのに前年をオーバーするのは大変な事。関係者のご努力・企画力が物語っている。3月の数字が入っていないがこれを入れれば102~103パーセントになると思う。大変努力されている実態がさまざま分かってくる。是非各々が文学館をピーアールするというなかで、何かのイベントの時に必ず来るようにしたいと思っている。一方的にお任せきりでなく、参画することが必要と思うので、知り合い等に文学館を広めて行くという任務があると思うので、今年1年間お客さんをお呼びしてみようかな思っております。

(議長) 文芸関係でお願いします。

(委員) 山梨文芸協会では、昨年、機関誌イマジネーションを刊行しまして、紙上座談会で、「山梨の山の文学を語る」をテーマで文学館の近藤館長にお願いしまして、企画を組ませて頂きました。

各界から好評であり、座談会の中で近藤館長・高室さん等先輩から県内出身の方の貴重な本のお話が出てきて、そう言った本を図書館には蔵書にない、是非山梨県の文学館の蔵書として収集していただきたい。貴重で他県に無いような名著を蔵書にお願いしたい。山の文学というと狭い分野になってしまうが文学だけでなく写真家の書いた本、地理、歴史書も含めて充実してほしい。

(議長) 蔵書の話も出ましたが、今後県立図書館、文学館、地域の図書館、生涯学習センターと連携として頂ければと思う。蔵書も博物館か図書館か文学館か、どちらがいいのか。また連携とりながらお願いしたい。

(事務局) 今の蔵書について、文学館の蔵書については、文学館資料収集方針に基づき収集しておりまして、県内出身または在住、ゆかりの文学者の著作、原稿、生資料、書簡類を収集しておりまして、当然これまでの蓄積の中で、文学者のリストがあり、収集していますが、見落としもありますので検索して無いものは情報を寄せていただければ、毎年収集方針の見直しをして、追加して収集する対象者を落とさないようにしておりますので、ご意見を寄せて頂きたい。

一方、収蔵スペースも限られているので、他の図書館等の連携をしながら、どこで収蔵するのが適当か、同じ資料でも複数のところで持っている必要のあるものもあるので、連絡調整をとりながら、よりよい蔵書を構成していきたい。

(議長) その他何かございませんか？

(委員) 22年度の事業の関係で、美術館、文学館の共同特別展、興味深いのが美術館、文学館の連携はこれが初めてでしょうか？

(事務局) 夏休みの共同特別展は初めて、かつて画文交響という文学と美術の共同の企画がありました。これは文学館会場にして文学館の企画展を美術館と共同でというのはありました。このたびは美術館を第一会場、文学館が第二会場です。両館を会場とするのははじめて

てです。

(委員) 新しい発想の取り組みの中で、非常に興味深い。子育て世代に関心をもってもらうようなPR活動を、私共でもしっかり取り組みをしていく。

毎年行っている名作映画鑑賞会の22年度は決まっていますか。

(事務局) すべて決まっております。全7回のうち、2回が子供対象です。日程も決定しております。

(委員) 今年が黒澤明監督生誕100年にあたる年で本県でも脚本家の菊島隆三とタイアップして作成した作品が多くあるので、それを意識してほしい。

(事務局) 10月24日に赤ひげを上映する予定です。

(事務局) 現在、常設展示室の中で、菊島隆三の黒沢組のなかでやった仕事を展示しておりますので、ご覧いただきたい。また黒澤明100年というキャッチフレーズなども展示の中に生かして行きたい。

秋の企画展、井伏鱒二と飯田龍太展については、仮の名称ですので、出来るだけ早く正式な名称をつけていきたい。また書簡集が出ますので、それもきっかけにしていきたい。

(議長) 他になければ議事を閉じさせていただきます。

7 閉 会